

# インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀

## ——ネットワーク分析による観察——

山形大学 山口 昌樹

本研究は、広義には邦銀の国際競争力を対象とした分析であり、注目が集まる国際インフラ金融の分野において邦銀が展開する競争を取り上げた。海外向け融資の中でもメガバンクのインフラ金融における躍進が目を引く。この分野で伝統的に競争力を発揮してきたフランス系銀行を抑え込んで、2012年にはメガバンクが上位を独占するに至った。また、日本企業が新興国を中心にインフラプロジェクトを受注する報道も目立つ。日本政府としても成長戦略の一環として官民一体となってアジア諸国へのインフラ輸出に取り組んでいる。このようにインフラ金融は日本経済の成長を展望する上で注目を集めるトピックとなっている。

分析課題は、邦銀がインドネシアのプロジェクトファイナンス市場でどのような位置を占めるかをシンジケート組成の観点から明らかにすることであった。邦銀はインフラ金融においてどのような競争を展開しているのか。従来はプロジェクトファイナンスについてのリーグテーブルが示す幹事行としての順位からメガバンクの動向を伺うだけで、競争状況について詳細を知ることはできなかった。

本研究では貸出案件の詳細な情報を利用することで市場構造を観察する。市場構造を捉える視点は複数あるが、本研究は、どのようなシンジケートを組成しているか、という切り口から市場におけるメガバンクの位置づけを明らかにする。この課題に答えるために分析手法としてネットワーク分析を採用し、ソシオグラムによるネットワーク構造の図示を試みた。また、クラスターの抽出によるグループ分けは従来にない切り口から市場構造を描く作業となる。

分析の結果、シンジケートの組成が邦銀を中心とする外国銀行のグループと国有銀行を中心とする現地銀行のグループとに分断されていることが観察できた。一般的な想定とは異なり、高度な金融スキルが必要だと考えられているプロジェクトファイナンスに現地銀行が積極的に参加している実情が明らかになった。また、グループ間の差異を案件の属性から確認したところ建値通貨に違いがあることが分かった。

本研究は国際銀行業、とりわけ邦銀が展開する国際競争について従来にない切り口から構造を明らかにした点で学術上の貢献があると評価できよう。また、インフラ輸出は日本の成長戦略の1つであり、その促進に向けた基礎資料を提供したことに本研究の社会的な意義がある。